

オオバコ (大葉子)

名前の意味^{いみ}：葉が大きいの意味。子のついた理由はわからない。

分類：双子葉類、オオバコ科、オオバコ属

好きな場所：日当たりのよい道ばた、庭

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた (自生^{じせい})

特徴：地面を丸く覆^{おお}うスプーン形の葉、棒のような花序^{かじよ} (花の集まり)、たくさんの小さな花

種子の運ばれかた^{ねば}：粘りついて動物に運ばれる

花弁の数^{れつごうべん}：4裂、合弁 (花びらがつながったまま落ちる)

花の時期：4—9月

食べ方：若い葉はてんぷらにすると食べられる

見分け方：ツボミオオバコとは、葉に毛がないことで区別できる。

脈が単子葉類の平行脈のように見えるが、よく見ると細かい脈は平行でないことがわかる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)